

音

音

音

文



日

日

日

日

日

高

高

江田高

江田高

江田高

江田高

江田高

江田高

江田高

江田高

江田高

江田高

江田高

江田高

江田高

江田高

江田高

江田高

特別  
リ 5  
15548  
4





晁 百六

天小私教教式禮

加子 音九人

水更人教音九人

長刀岩

多音九 大塚海人

豐 白水三平

音九 永新音四部

日 川端音人

日 橋白音人

久義九人

久三人

久八人

日音

久三人

日 米永池人

日音

日 橋東音人

日音

音九 久佐音人

久八人

是北百人

天小私教教式禮

加子 音九人

水更人教音九人

陰ノ尾

多音九 橋橋音九人

音九 上杉三人

多音九人

音九三人



天小松教務二被

日	日	日	日	日	日	日	日	日	日
西森	日	日	日	日	日	日	日	日	日
費	藤井	杉	太田	福嶋	細江	馬場	日	日	日
西川	利助	信八	三島	中島	中島	中島	中島	中島	中島

是日或指六人

日	日	日	日	日	日	日	日	日	日
日	日	日	日	日	日	日	日	日	日
日	日	日	日	日	日	日	日	日	日
日	日	日	日	日	日	日	日	日	日

是日

加子 音平六人

在東教務音平一人

附添祐吉六人

是日 音平一人

松次 一人

天小松教務二被

加子 音平六人

天小松教務音平一人

附添祐吉二人

是日音平六人

是日音平一人

是日音平八人

是日音平八人



是程二十人

松頭一人

五人

天小松教二被

加子百十人

本松教十比被音六人

○水浦御中感滿誌

是程 幸六人

在惣人数二の比十七人

總計人数にの音が十八人

總計松教四比中被

○甲斐守様御致付福岡司の御是相見候役人

四の音名 留人 毛利在比迄

八十七人

附役是程者 音二人

八の音名 在付附 杉山又比迄

二人

附役六人

五の音名 是程付役者 東云元

八十九人

五の音名 御使高 比水之部者

八十八人

八の音名 日 毛利又比

八十八人

五の音名 御使高 藤田涉比迄

八十八人

六の音名 日 上郡忠左

四音



四百九

日消 演与一古是

日 縣久十古是

附添 八人

御旅筆 六人

御無足組 八人

御教判官 中三人

甲斐守権御侍下七百八十八人

一大小私教十之被

加子 高車中人

御私教 家本帶刀

八十二人

八十八人

八十八人

八十八人

△比末御殿

執事

諫早播磨

日野八五人

深堀左部

家老

沙路帶刀

日野三五人

久久 却御

上下五人

浦東 羽中退

日野五人

物頭 中一人

日野五人

平士 六木人

日野五人

少侍 中一人

日野五人

足代 七古中人

日野五人

沙路家老

日野五人



今日三所御屋新并小倉新中島目人数表下口  
松浦滞松平八段。三所御屋新并小倉新中島目人数表下口  
山城

松平 八段

久入 長門

松平 日隆

小城

在御岩場并松所因場惣人数二百被

加子に少人

西御新旅

馬頭

二人

上下二百人宛

日

物見

十人

上下十人宛

日

左突取人

二人

上下百人宛

平士

十人

上下二十人宛

小侍

十二人

上下十人宛

左突取小侍

二十人

上下十人宛

足控

三人

上下十人宛

大小松村口守被

加子 二少人

在御岩并西御岩所并御人数表下口  
此所御屋新并小倉新中島目人数表下口

等三在御人数高二相成候也

在御岩并西御岩所并御人数表下口

藤崎十人

上下十人



附設

小柳 官亮

十人

在ヨロシヤ私倉中寸設助トシテ御座浦(裏)置  
總計人数二萬七千五百二十一人也

○佐和物頭二十一人在案

下村 七兵衛

竹野 全吉

新村 久吉

石井 大助

舟橋 善吉

赤口 易也

吉田 長十

板水 邦吉

阿部 元吉

山崎 善吉

石川 八兵衛

石橋 寛吉

秀清の御寄附

園 沐吉

石田 政吉

岩松 善吉

吉田 善吉

吉田 善吉

高柳 音人

小池 平吉

飯井 善吉

吉田 善吉

松本 新吉

渡 玄吉

阿部 元吉

土山 友吉

阿部 元吉

中東 仁吉

阿部 元吉

石園 善吉

以上



八人村御人致

小早二被

東海被

八人枕被

七人枕被

費

吉

日

諸施者

醫所

二十二挺立

五挺立

農衣十人

園村應仰

婿所武之清

十人内一人

行山園禎

十人

十人

日荷

十人

日附

給人

日

日

日

祇院

久家

岩光

揖取

月没

小作、借亦人

井石 願市

所末盛人

岩澤長場

田川若吉

宮永彦信郎

一人

一人

一人

圓口若吉

十人

十人

日景

日景

日景

十人



同式一人

同附更二人

以上

小軍被

十六挺立

東海被

四挺立

大筒被

七友帆被

筒丸

千葉殿平下

上八人

石丸大五

洲山長衛

上十二人

日

飯筈 中七

日景

大筒末

十文 内六人

醫所

北所道禎

上十二人

祇頭

一瀬常公

上十二人

多倉

一人

名光

一人

楯取

一人

門役

夜回進助

同下八

一人

日附更

二人

以上



惣人数百八十八人

松敷九被 石外小被数段

左分二十日宛諾交代

○ヨロシヤ上陸、付大浦子出張

用人 高田 小道

上下七人

馬廻 常井 左伴

上下十人

日 北条外衛

上下十人

日 岩永 冬守

日衆

日 山口 琢伸

日衆

松浦 次郎

日衆

木下人騎馬

日附 木田 曾託

上下五人

日 鈴田 沐忠太

日衆

日 山口 孝吉郎

日衆

日 朝長 伴与馬

日衆

給人 依藤 貞治

上下三人

給人 中村 治与信

上下三人

日 溝上 平八

日衆

日 松尾 忠平次

日衆

日 之瀬 仁与通

日衆



屋外大工小挽足輕兵 詰及貝持合長總計

二百六人

○南河守り

惣 大村 五

与下十七人

日 雄城左膳

日 兼

在三人騎馬

日附 福井孫兵衛

与下八人

日 永井深茂

日 兼

与方 浦上安四

与下四人

日 原 煥吉

日 兼

日 柳米卯彦太

日 兼

日 小佐 詮

日 兼

組 共 二十一人元

屋合大工由所

日附 柳本 日左衛

与下三人

日 岩永 知太丈

日 兼

日 加瀬 順吉

与下三人

日 宮村 佐久馬

日 兼

日 一瀬 悦右衛門

日 兼

日 貞松 良太

日 兼



凡此 十二人

本分小番所

醫師

神道泰庵

十二人

外科

近藤 玄禎

十二人

在外腰子も役人細々多し内役も大廻役期も小役

等在外役も一人数畧し

五十二日

○俄羅斯亞木松湊口へ挽入ノ吏

日十月二十三日ラ口シヤ松湊口へ挽入ノ吏御七海サレ在ハ云凡  
日江戸表へ飛敷ヲ以テ注進相成ル処年先松湊表ニ於テ

子ヲカレニ度ノ信牌持渡リ且彼國王ノ役節名也ニ付テハ  
格別懸念御モ見ナキニ付漢ノ役者許スヘキ故彼令下  
ルニ付毎日挽入ニ相ナル事ナリ在ニ就テハ沖右岸番所餘  
員表場其外向ノ庄屋表ノ約束先延ノ通りニ及ズスニ  
引取振鎖壹ヨリ令下リテ翌二十三日ヨリ向コ引拂ニ相  
ナリ与テ由所共外共ニ事々ノ格別ノ備ヘ見ナク一通ノ守リ  
松計ニテ武器銃槍等皆引取ニ相ナル  
右通リ挽入ニ相リ毎ヶ崎沖ニテ所計ニ罷来ノ守リ松計被  
斗リ松印ヲ立幕ヲ廻ニ此等武器飾リ付ハ見サレ庄屋  
等ニ懸留人跡無クアリ此外表隊ノ通リ禁言皆ニ平日ノ



通引取暫ク詰り居着セリ且又大村陣を引取振奪下  
ア引取引掛二相ハ心救ふ由年商トシテ十分十頭計健  
児千人獲り居ル也二十日又代三テ大村ヨリ都由ア先以  
テ江府ヨリ預節ノ指揮トシテ詰り平穩ナリ

○ヨロシヤ人滞留中ヨリ鎮巻ヨリ盤餐下サレ相脈鶏午  
所牛羊等ノ肉亦ナリ余此外魚類且小麦ハ二振木薪塔  
醫池水等正總テ公儀ヨリ下シ給ル且又假館建繕入  
用ルニ千貫目余花亦公金相掛ル此外花北料詰吏臨時  
ノ下サレ汲込ニ六ヨロシヤ一件ニ月莫太ノ執費アリ然レ臣  
預節ノ事ニモ許容ナク都テセケ月余在留致シ文化ニ

本年七月鎮巻ヨリ召命アリテ別マカリ出陣七日再ヒ出テ  
同日治定命アリ凌出帆ト相ナレリ

○江府ヨリ御旨下シテ拾人日附遠山金目所致下向年ニ  
伏見新別亞人預巻入召出サレヨリ

文化二年己丑正月於江府御日附遠山金目所致召出サレ作セ  
汲井以家ノ執如左

云秋入作早ムク問滞留大儀候新執懸切申出ハ  
事故再ニ来リ群議有ク作出サレ候條自致時目及及  
三二候ヨリ一候  
在佛魯齋亞人ニ能ク申聞候様可被致候



二日十八日在遠山殿長崎表到着先立山岩示度へ着先  
 あり西鎮守下對談相濟川時日ヲ移サス作波シアルベキノ  
 る尚二月六日海甚へシロシヤ人マカリ出ギニ相宛り波は場  
 日の上陸本通り御築不肥不日何ノ新ニ事所ヲ建ラシテ  
 へ出ル横河口残ラズ板ヲ以テ斷斷諸人見知停止ノ儀嚴交  
 命令アリ然レは通り御家ノ新切ニ及バズ今仁近寺ニ原  
 シ鉤目<sup>カケ目</sup>敷平悪カウザル様ニ取結ヒ表外通り御河ノ橋  
 牆<sup>カキノキ</sup>ニ至ル迄<sup>マド</sup>換所<sup>カキノキ</sup>アハル修理工アリ嚴格ニ相換所  
 本日鎮巻へ登拜ス

○鎮巻ニテシロシヤ思過ノ次第ヲ書

初日

- 一 四ツ時ヲロシヤ人方へ只今マカリ候ベキ相換使トテ午附兩  
 人ヲ送ス
- 一 大波戸へ見渡ラ去る由シ置上陸ノ儀注進致サセ右注進表  
 候御使所由所相諾サセ可申
- 一 シロシヤ人未着候ハシヨク繪圖面ノ場所へ為置キタハシ  
 候吐出スベキ
- 一 總法都合具表等々書院ニノ間ニ而へ三人着候後日ハ  
 刀持表外遊習ノ夫差置申ベキ
- 一 着流ノ後ヲロシヤ人長所案内トシテ用人ヲ候候



中央三通朝之人差添リロシヤ人使節ト唱丁ト一差出カレ  
キキ

一 此外三通朝者ハ次間入口古置ノ間ニ差添此処ハ其古キ更  
ラロシヤ人席ニマカリ出候ノ定テ此間ノ礼ヲ致スベキ  
左候ハ左早テ去秋秋決已ルキ別キ逗留致シ候段  
ノ御申述過テ此間海外ノ主意豊後守相存リロシ  
ヤ人答最前申立候御相變候ナリ候ト。長崎へマカリ  
鐵若書翰等決テ加波ノ間鋪段先年松本ニ於テ  
諭有シ如何相心得此間書翰持相波リ候段ハ  
回撫守相存答申聞ラロシヤ人是レ

二日目

一 惣休ノ奉教初日ノ通リ  
一 ヲロシヤ人席へマカリ鐵收國ノ礼致候ハ左早テ御教  
諭ノ書月大度蓋ニ載セ御申定方持出シ豊後守前ニ  
置御教諭ノ書月讀聞セ候間奉ルキ古置後守  
申述候上御教諭ノ書月讀申セ左御書月御申定方  
持出通詞ハ波ニヲロシヤ人御請致シ早テ奉以申諭書月  
小度蓋ニ載セ左御書月御申定方持出ニ置奉許申諭書  
月讀聞セ奉ルキ古置同撫守申述候上左書月同人讀聞  
セ左書月御書月御申定方持出通詞ハ波ニ置奉許申諭書月



候中述致シ畢テ取申ノ者共ニ綿二十把相立候陸置  
後守中述畢テ取申新水ノ料トシテ来日俵天塩ニ依テ人  
候段因幡守中述畢テテロシヤ人近江  
一 近江ノ行掛ケ綿見セ候支

左綿即日通詞差添持セ共スベキ

一 呂ニヤ人書翰ノ寫先申テ差出シ候書親通詞ヲ以差出  
候支

一 連来候漂流人者亦相渡候ノ明日此方ヨリ請取ノモ  
差出シ請取ハキ名通詞ヲ以テ中流スヘキ

一 白後波國漂流致シ候モノ多ク日本人差取ベク存候

紅毛人相渡シ送ル遣スキ子通詞ヲ以テ中流候支

一 取用意隨分ニ致シ外ハナク有知可仕方量後守

本

○ 俄羅新亞人道中備臣詰長御由所因テノ者

引テ二月廿日早天鎮巻ヨリ候使差出サレ四ツ時ヲロシヤ人出  
ヘキ命アリ則梅ケ崎ヨリ大波ニ送リ取来ノ座取流王托ヲ以テ  
兼流ニ流王凡飾ノ付前ノ如ク紫ノ幕ヲ之純子ノ幔幕ヲ  
子也ニ武器ハ先ナリ取不討リ立テロシヤ人ヲ迎ヘ無セ太鼓ヲ  
撃檣拍子ヲ取リテ漕連此外此取人等在吾國ノ取取取  
者紫ノ幕ヲ取也ニ取取立附随ヲヨロシヤ人モ以節ノ印持



ヨ立来浪止此時支本私ノヨロシヤ人同ニ枕初ニ登りノヨ  
上ケる喜ヲ唱フ休ナリ依私中滞リナリ大波戸入着

○大波戸ノヨリ附録六

- 一 又祿ノ頃ヨリ此所ヨ私着ノ波戸場ニ定メ石垣ヲ築キ  
地形ヲ均シ由所ヨ建寛永ノ初年ニ至リ私ノヨリヨ  
リ下波ヲ出シ異國私着津ノ初ニ御奉所ニ注進士ニ  
一 寛永十一年有詔訪社御神事始リ此年ヨリ大波戸地ヲ  
御旅所ニ相定メル信テ八月朔日假御殿地注板奈  
一 同十二年ヨリ片私着漸淡了ニ被令着私同十八年河  
蘭陀私年戸ヨリ長濱ニ移サル向後異國私一切他處ニ注進

スル御停止作付ラレヨ漆柱間雜多ニ成堅固ノヨ私  
通私等ヨ出サセ私改水主貸銀証人ヨ寺私ヨヨリ差生サレ

- 一 此寶事波戸場江何ヨヨル 長廿二間 四合ニ々  
坪数廿七坪 長十一間 横八間 坪数八坪 長七間 横四間 合ニ々坪数二坪  
合五々

本之所合ニ二十六坪余地形ヲ築キ出サレム

- 一 元禄八年 長七間 横七間 坪数四十五坪築出サレム
- 一 同八年 長八間 横六間 坪数二十四坪入江所 長二間 横六間 三坪数八坪  
余築出サレム

波戸場間数ノヨ



東西 諸所より

二十六間

南北 西御後所本垣下より  
海山岸石段ノ上迄

東側二十七間西側二十四間

松着ノ石段上通ノ二十間

入江 横六間三ノ八 長十に間

此所風波節御用私寺引込可築置用意ナリ

如書所 棟 長三間 横二間

寛文五年尾通寺願ニ依テ唐私更申入江ノ時漆門も角目  
爲ノ爲大佛上ニ燈籠葺堂ヲ建カ夜燈火ヲ照ニ置タキ名御  
免有ク去後此所漆門ニ度私阿蘭院私在江中築園ノ敷キ由私  
没今被知如若風波甚シク乘私敷敷キ時ニ較索由私ナリ也

此高所より海上ヲ見渡シテ相守凡故去後ハ迹ニ中由所上嶋也

役人諸所 延設居宅 一棟 長十九間横  
二間二ノ八寸

此門中央二間ノ新役人諸所ニテ左在八間半宛ノ新延設ノ居宅

御高札

漆キワ断ナクシテ築出スルヲユルサズ 并 輕物塵芥一切見上捨込  
カウズ差標ノ輩於有クハ可方曲ルノ者也

十日

漆屋久玉一 大波ノ坂際ニテ

廻リ五ノ八寸程

在決玉ノ了結 鳥記ニ去説リ出サ大敷又等ノ傳誌ニ表



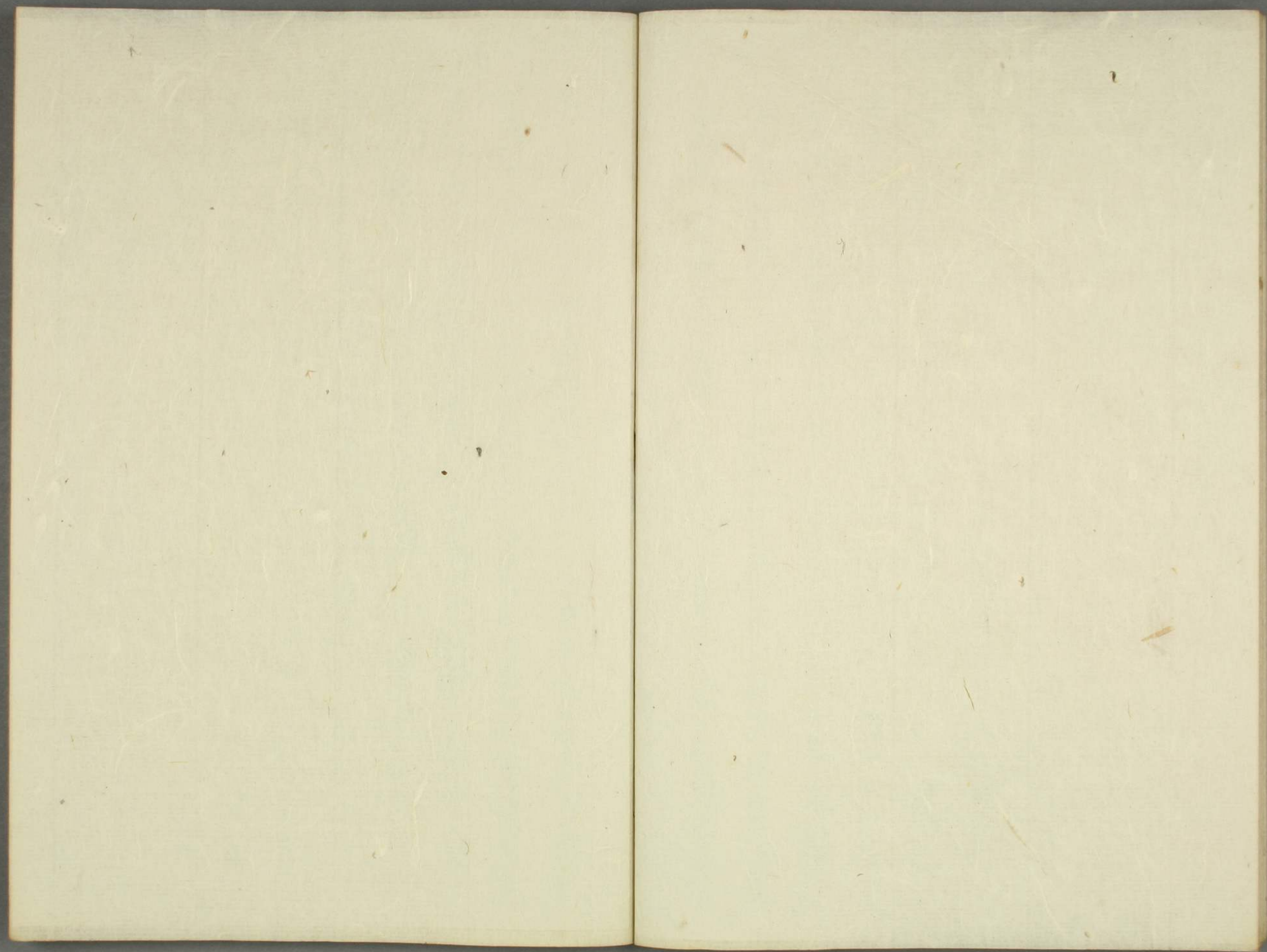
人我回成り歎サニ下波四ヨリ持外レリト云或ハ日本ヨリ喪私  
ヲ可繫沈用意也ト云又一説ニ場系一投糸城ノ節於波地上  
中ニ天ヲ掘リ板キ地耐敷四リヲ以テ此至ヲホ出スヘキヨリ友  
ニ鑄造セリト云其説何レハ虚蕩ニシテ信南シ然レモ其  
既シ奉ル而耳

木浦録大波アリニテ終ル

又ヨリ道中列ヲ整へ通リ去ル波アリノ備在キ外浦町ノ心  
レヨリ枕嶋町ノ心道中ノ白ノ幕二段ニ張ル地帯ナリ先ヨリ  
海ニ制札場迄地帯ノ幕一段ニ張ル地帯ナリ先ヨリ波近  
ニ波ニ幕ヲ張リ切一白外権ノ家ニ入ルハ此権ニ致シ依テ  
海ノカケノ上ニ波アリト云嶋ノキワ述不枕嶋町成州

ノ波頭述海ノ香リ幕ヲ打廻ス左ノ屋敷大至ヨリ何レト西尾  
ノ波岸ト新田流ノ後ハ二廻ニ幕ニ張ル地帯ナリ先ヨリ波近  
ノ波頭述ナリ新田南キ岸ト二白ニテ一白ニ立連子ノ方ハ  
物置且是輕体息ノ処東ノ古間ノ地ハ二間ノ板軒ヲ付ニ間  
ニ二間ノ古所ナリ内取ラズ金屏風ヲ以テ立廻シ外白幕ヲ以  
テ引廻シ左ノ二盛砂堆ク田子ニ柄杓ヲ割ヘ在ニ黒鳥毛ノ  
漆ナクハ二柄ノ木ノスツメノ道具ニセ子リイカ掃サスマ此  
ニテ道具ノ飾リ付ノ二波地ノ柱







三十張板ノ間ニ足輕二十人沃施切大繩ニテ構へ上段ニ高札物頭  
等ノ七人袴羽織ニテ備へラル○在大波ノ中島所不取ノ路  
固旣不請持ニテル処羽立六日ノ朝ヨリ肥不請持ニテル在云  
身ヲ口ニヤ入付ノ節肥不請持ノ中島ニ陣張ルニ故旣不取  
ニ相成ル款ヲ以テ此節ノ在云トシテ朝ヨリ肥不請持ニ  
相讓ラレ中○西御所ノ在云トシテ大村ヨリ固大アリ日金屋  
氏外譽ニテ道具盛砂等肥不請持ニ同ノ外土間ニ延テ布キ  
アシカル十人沃施切大繩ノ上云人肥不請持ノ上云何経キ  
ノ道中鎮巻ノ下止通ル所ニ所ニ所ニ所ニ所ニ所ニ所ニ所ニ所  
西ヨリ入外浦所大村所不請持ノ付同云本博多所所所ノ

可南北ニ長ク東西六十間余リアル故新番所ナシ平日ノ自カ  
由所ヲ取極アリ本興善町豊後町櫻町勝山所各肥不請持ヨリ備  
へ在勝山所不取極不請持不取極通リ也鎮巻ノ門下ヨリ  
普請役所且是場ノ西北定所道ニ大村請持普請。役所沃施切十挺  
ヲ十張物頭西人師兵外飾ノ付同云在通リ右嚴板ニシテ  
ヲ口ニヤ人ヲ侍抄ヲタリ期テヲ口ニヤ人列ヲ正シテ通リ亦ル先  
云在在ニ船中人所使十人何レは修羽威儀一人宛從フ次ニヲ  
口ニヤ請持一人同役人西人次ニ役節當當ニ乘ル通リヲ口ニヤ迎  
ヒノ檢使西人駕籠ニ並ヒシレヤ出習ノ者四人以テ口ニヤ八人  
ナリ次ニ肥不請持十人左右ニ分レ陣笠ヲ着テ侍ヲ持警固



ス次ニ徒士三人袴羽織衣裳小太附徒フ次ニ麻押卜シテ此系物既  
一人馬ニテ陣笠頭戴所袴履及刀二師長一人隨從ス此外奴隷僕園鏡  
史等ノ者連綿トシテ道中靜ニ列ヲ乱サス四ツ半時頃鎮臺ニ  
伺候致入備一通リ拜礼相動ス儀式畢テ是ヨリ公書ヲ乞作セ  
返サレ○此問ニ使去ノ問ニ於テ菓タバコ菓子等給ル也

○江府ヨリ作セ返サレ公書ノ執

我回昔ヨリ海外ニ通問スル然回亦チカウズトイヘレテニ使臣  
ニアラズ故ニ嚴禁ヲ設ケテ異國ノ高舶モ亦タヌク我回ニ來ル  
ルヨリ許サズ強ニ止ルル海舶アリトイハレ國々違ケテイレズ是宛  
ハ朝鮮琉球七ノ使來ルスルヨリ互市ノ利ヲ必トスルニアラ

ズ來ル事ノ久ニキハ素素ヨリ其イワレヲ以テ也其國ノ如キ昔  
ヨリ來タ曾テ信ヲ通セシ事サレ計ラザルニ前年我回漂泊  
ノ者ヨリザチヒテ依前ニ來テ通音ヲ乞ム又長崎ニ至リテ  
好ミヲ通シ交易ヲ同カニセヨ計ラ既ニ去事ヲ再ヒニ及ニテ深ク  
我回ニ使臣所アルモ又切ナレヲシレリ然リトイハレ堅ニモ所通  
信通商ノ事ハ重テ守ルニ議スベカウザルモノ也我回海外ノ結  
回ト通問セザルヨリ既ニ久シ隣國ヲ外國ニ修ムルヨラシラザ  
ルニアラズ其風土異ニモテ事情ニウケルモ亦惟心ヲ結フニ足  
ラス從ニ行来ヨリ煩フヒイタム故ヲ以テ絶テ通セズ我回歴世  
疆ヲ守ルノ常法也事ハ其回ニ儕ノ故ヲ以テ朝廷歴世ノ法



ヲ變スベシヤ礼ハ往來ニ向フ今其國ノ礼物ヲ請テ答ヘズバ礼ヲ  
シラザル國トナラシ答トスレバ海外萬里何レノ國カ然ルベカラザラ  
シ容ザル勝レルニシカズ互市ノ此キハ其國ノ有所ヲ以テ我チキ所  
ニ交各其理有ニ似トイヘバ通シテモヨリ論スレバ海外無價ノ物  
ヲ得テ我國有用ノ化貨ヲ失ナハム果ズルニ固計ノ善ナルモ二  
アラス况ヤ又輕源ノ民奸猾ノ高物ヲ競ヒ價ヲ爭ヒ唯利ニ  
クレ謀フテヤハヒスレハ風ヲ壞リ俗ヲミクムル我民ヲ養フニ害ア  
リテ深クトウザル所也互市交易ノ事ナクテ只信ヲ通シ新ニ  
好ミヨ結ハム事素ヨリ又我國ノ禁メユルカセニナシカクシ及ヨ  
以テ通ズル事ヲセズ朝廷ノ意カクノ如シ再ニ來ル事ヲ貴ス喜ヌカ

丑二日

右ノ通り御目附ヨリ讀聞セラレ此旨通告ヲ以テヲロシヤ人通  
達アリ

○長崎御奉行所ヨリ申渡シノ書

先年松前へ來リシ節スベテ通信通商ナリ難キ事ヲモ一  
通り申諭シ國書ト唱フルモ我國ノ假名ニ似タル書翰持來ル  
事ヲ許サズ第一松前ノ地ハ異國ノ事ヲ官府へ申次所ニアラズ  
若此上其國ニ歿リシ漂流人ヲ連來ルカ或ハ又願申旨候有ト  
モ松前ニテハ決テ事通セザル間右ノ旨長崎ハ異國ノ事ニ預ル地  
ナル故ニ該タル事モアルベシ連長崎ニ至ルタメノ信牌ヲ与ヘシ



也然レヨ今又回話ノ書ヲ持來ルルハ松本ニ於テ中諭シテ在方辨  
ヘカクキニヤアラシク海ニ城ヲ異ニシ風土昔シカウ又故ニ過ニカ  
ク事ニ方リ此度政テ政府ノ旨ヲ請テ中諭ス事件ハ此特ニ  
中前水ノ料ヲ上ラ然レ上ニ我回返キ嶋ノ林ニモ決シテ松本  
ルガウズ早ニ地方ヲハナレ速ニ帰帆スベシ

右通り西鎮長ニテ命セシレ通詞ヲ以テ表細ニ達シアリ翌セ  
日又ハヨロシヤ人共鎮臺ヘ召サレトサレ物及々如左

- 一天炒木 百俵 一小麥バシ 二千斤 一棧 二千俵
- 一真綿 二千把 以上

命書ノ名返ニ欽諾シ在薪水料特受致シ七日午刻過梅ヶ崎

へ帰鎮致ス然レ此嶋へ松繫リノ儀ハ風頃亦才ニハ吹戻サレ當計  
リガタキ事一モ有ク同共事ハ係テ諸國ノ命令ニ置下サレ反リ  
ロシヤ船ニテ此回開彼へ在船速ニモアリ百一松繫ルヲ致サバ  
然レハク無事セラルヘキ故向ハ命令アリ也

シテ同九日敷且トサレ物礼謝トシテヨロシヤ人共鎮臺ヘ上リ早ク  
飛ニ致シ亦レ十九日出帆仕ルベキ事トレ修ク同十日改メ揚幕外  
通ノ節ハ所取ニ加ナル儀十九日朝辰ノ刻頃松用宗一切相調可  
ロシヤ人共ニ本船ニ乗リ移ル此節一切揚幕一々取ナリ在レ  
同十六日築家肥系ト洋御出所定代當年為付揚幕一々二  
初ナレ中提立ノ取ニ離ノ綿幕ト純子切幕肥系同取ナリ在



ノ座私ニヨロシヤ使節兼組太政官ヲ以テヨロシヤ本  
私ニ相送ル共案ノヨロシヤ人外私ヨリ送リ遣ス私飾リ同私  
ナリト使節ノ私アリ先ニ二十日板立ノ私一禮使節ヲ飾リ立日可  
ロシヤノ太政官ヲ繫先ニ遣ハ使節假館ヨリ私へ移リ時合ツ  
先アリ以テ如ク本私ヨリ物折ニヨリ同ニ聲ヲ上テ兼私ヲ  
祝ス休ナリ備本私ニ兼移リシレバ直ニ挽私ヲ以テ津神崎道ニ  
テ挽送ル然レ処ヨリ日頃順直クアリケルヤ津一川行方ヨリ帆結ヒ等致  
シ昔午前過ニ悉ク帆ヲ上テ即別走出ニ在見返リトシテ高組遠  
見由津出有し翌五二十日幕方見隠シタル後二層トシトゾ  
在俄羅斯●西一川紅毛ヨリ録書外彼方ノ北軍書記シタル小箋

等ヲ搜羅シ且見聞スル所ヲ採リ其大概ヲ筆記スルモナリキ  
ヲロシヤ人長崎ノ訪役人兼ニ假館ノ通達ニ列シテ情ト事  
●三月七日ヨロシヤ人御奉り所ニ呼出サレ風頃津舟帆致スルキ  
分作セ渡サレケルニ禮テ表結致シ梅ヶ崎假館ニ退ス然レテ御田ノ  
用云連ナリ所ニ礼送リヨロシヤ人トシテ西軍船通達ニ結役人假館ノ  
諸所ニ役ヲ以テ案内セシ別レテ情ト事トテ聊カ茶ヲ送テシメテ復  
節ノ所ニ御来臨願下ノ役ナレ礼結役人野崎ニ使ニ慮サリニカバ  
後何節レサノツトリト案内ニ付ルニ無極苦ト性ケレバ極  
ノ珍味ヲ銀盤ニ盛テ茶ヲ送テテ然レニ却テ結役人熱心  
ヲ生シケルハヨロシヤ人ノ節ニツテ相スニナルニハ内心憤リ可合ミル



何令食ヲ述スルカモ討リカタニトモ、福海休是ヘケレバ使  
節甚多直ニ悟リケルニヤ菓子類ヲ一ニ自ラニ裁ク食シん也  
ケル故又ヨリ諸人件ノ珍味ヲカシツク味ニケルニ中ニハ其ノ無  
類ノ其味ノ物共アリケレトク其末使節ヨリ大過詞在橋野ノ  
ヲ始詰掛リテ後人ニ又、菓子類ノ述物光ニテ、水ノ御世話ニアツ  
カリ在聊カノ礼謝ノタメ輕物述ニ致ス故實ニ懇ニ申ケレバ  
諸人御上ノ所ヲ恐レ其後ヲ申斷リケレバ使節ノケレハ預ニ  
節スムスマザレニ拍ハウス何レ日本ニ渡リナハ諸人ヨリ御世話ニ  
アツカレキルノナレハ輕微タリ厄州州ノ節ハ礼謝致ス旨持ヨスベシ  
ト奉命ニヨリ午當致シタルルヤレバ受用トサシテ帰國ノト

ハ奉命ニ背クノ責ヲ受クベキノ同光亦受用トサレタレ直ニ御  
受トサレスハ假館へ致シ置ヘキ同御上ノ所然レバ作り作セトテ御取  
トサルベシ百一御上相濟サレ時ハ品物御捨ナサレバ又ハ同蘭  
院人附屬ナサレ候也ニテ御世ニアルベシ物ハ受用トサレカシ  
トテ寧ヲ尽シテケルトゾ御上ヨリ受用致ス旨教兒アリシ  
カ當レヨキ物共ヲ請取ヨシ使又ヨロシク後人ニ斷リ假館邊  
家別ニ性キテ別別ノ詞ヲ日本詞ニテノ先ニテ以テ御世  
話サレ明日ハ坪州致スニ是リ再ヒ果ハ渡ル期モコレサレヨニテ  
別レヲナスノ懸シキト涙ヲ流スノ体ナド致シ候様サレツク  
然レモ遺スヨシ或人ノ白蜜人ハスベテ貨財ヲ以テ人分ナリ



ケ漸トト惡宗ニ引入ルノ年管ヲナス至ハ然ク人ニ物ヲ送レテ  
悦フニタラズト此又昔ヨリヨク云フナレト此又ノヨヒニヤ人々  
所又ト同シカウサルニ似タラシキ既ノ回ト云フト疑ヒテ日本人  
氏彼地ニ往レテ我カ古里ニ帰ルルヲ強テ誓ミザルヨラハヨ  
キ回ト思ヒレタラシキ又ノヨラト再ヒ日本人ニ用ナキニ王命ト  
言ハリ強テ送レテ誓ミザルニマカセタル休ナリ彼ノ有以敵  
ノ類ニアラフストんハタラシキ別レテ惜テ後再用志速ニ取  
シテ同リク九日長清ノ漆ヲ棄ルニ次アリニ帆ヲ揚テ十日ノ朝  
ハ西大カスカニ帆ヲ起シ流物遠影碧空ニ見隱シ跡ハ長江  
ノ天際ニ流ル氣色ナリトゾ

○ヲロシヤ國也緒入るの或人ノ曰クロシヤノ也然モト漢人  
孫ナリ異國志ニ鄂羅斯ハ漢ノ本李陵ノ孫トアリ昔李陵漢朝に  
蘇武ト曰ク白奴ニ使節ナリシ時久ク此地ニ留マリシハ漢主ニ  
ヒ見ヘタレバサセアルベシ然レバ吾等祖大我ト同シカラス白奴  
ノ難難ナリト李陵蘇武後ハ漢朝ニ帰レトイハレ其留レル者  
久シケレバ喜ナドアルベシ然レバ吾等ノ邊地ニ死ルル者難ニ  
ナラサルベシ同國ケル久キハ一千八百何年トアレトムスコトビヤ  
張リ出シテハ萬國世界ニアラフヲ領スル者ハ近キヨリナレヨ  
大清ノ雍正年同ニ略テ入貢トアル由然レ帝都ニ入レ北邊ノ  
境ニテ入貢ノ礼ヲ受ラレシトゾ阿蘭陀國ナドハ唐トナレハ



カ長崎ニ居ルヨリウシダモ此ノヨロシヤ使節ノ来ニ出テハ至テ  
平伏ノ体ニテ中ノ言葉ヲ返テノ受テモ容易ナラザレバ沙汰ナラ  
サレバ骨ヲケル也物等互ニ致シヨロシヤヨリ珍器等阿蘭陀ニ送  
リ阿蘭陀ヨリハ酒瓶ノ類ヲ饋ルヨシ○金休ヲヒシヤ邊及ノ  
地ニテ其ハ情中固ニ此スレバカシクトイハレ至テヤサシキ心ア  
ル事聞ケハ漢ノ疾流ニ化アルヤ其情ノ柔弱ナルニ此スレバ舟  
船ノ嚴重ナルヨリ天下名ニ勝レルモノアラジ世界ヲ乗ル廻ル  
事尤利ノ人ノ固防ヤ橋渡ノ難ヲ度ルカ如ク思ハレケリ其性ノ  
北部ニカタヨル所カ決断ノ速カナル事又日本人ニ稍勝ル此等阿  
墨利加船ト云テ大船一艘入りハ其結固ノ珍物甚ク種々貨物

ヲ積載セ阿蘭陀ヨリ別格高法類々々々二十ヶ日ニモヨ  
ク之レ船ヲ仕立ルル也類書又ニ封ノ箱ヲ挿ケ類々レハ御用  
ニテラズモ先身五嶋沖ニテ乗リ沈メタル阿蘭陀ノ船既乗  
組居テ先身阿蘭陀船後々々々々々々々々々々々々々々々々々々々  
セ有ラレ共縁ヲ以テ又ハ阿墨利加分限ノ去リカタラヒ故  
ル致テ下向ヘタト後ノ節ハ御免ナラズ此頃亦舟師恍惚ス  
ベキ事作セ返サレシニ言ノ故に重テ類ハ直ニ濤ヲ出帆ス敷  
月ノ心配數千里ノ海ヲ渡リ思ヒ立シ事ナレハ強ク類フ事  
氏致サスハ夫斷ノ速ナルハ其ト云ベシ此有ノヨロシヤ人先ニ此  
ハ道程ハ一萬石ノ子且殊ニ日本人モ無有ニテノ載セテ第一



御朱印ヲ願ヒニ致シ彼國王ノ親類ノ役人使節トシテ貢賦ノ  
品ヲ持来リ願ヒ更ニ致シタレドモ一ツは御免ナリ空ク帰帆作  
付ラレケレモ又此ノ願ヒに致サス直ニ本國ニテ速ニ帰帆  
致スラズトハ決断ヨキモノ共ナリ但シ是年南蠻人強ク願ヒ男  
斬取セラレシ事ヲ聞ク人信テ言テ願ヒサレ事ヤ又ハ過辨  
ノヨク分チナルニテ面節ノ患イタレヤ別シテ臨テ茲役人ニ天  
汝ヲ謝スリ按撫地ノ蠻人ヨリ強ク心持アルハ漢ノ李陵ノ  
孫ニ反アルベキカ○ワロシヤノ更シ赤人ト云ハ松本殿員ノ方ヨ  
リ云ラレシ更ト見ヘタリ二十年來松本ノ人此ニ来リ物語リ  
シケルハ蝦夷ノウツコ島ニ異人來リウツコヨリ捕皆赤人ト

云付テ賢ノ毛ノ赤キヲ以テイエト更ヤ又赤キ着物ニ見テイエ  
ト更ヤシラスト物語リシケル近來江戸ノ泰和穩<sup>トウヤ</sup>磨<sup>マ</sup>ト云ノ衆セ  
蝦夷國奇觀ヲ見ルニ蝦夷國東北ノ隅ニ當リ子モ口ト云所  
リ此ニワロシヤ國ノ境目在リ建々々横文字ニテ記スワロシヤ  
船頭アタント云者ノ書タレナリ又此所ニワロシヤノ柵ニ跡モア  
リ然レハ屬國ノ廣大ナル古更世ニ類チキ國下見ヘタリ然レハ近年  
松本ノ地へ江ノ日ノ遊ハ茲役人濱リ給ヒ蝦夷モ日本ノ教化ニ  
從ヒ此子モ口遊日本ノ會所出外タリケレトモヨリ與ハ寒氣  
ニテ日本人ノ居住ナラザルヨシ



右口シヤ一件ニ付公儀ハ向編毎不肥米共外並四ノ物入莫ク  
更ニ相聞ヘケル事故奉ニ殿アウ入已ニ肥米ヨリ蠟燭ノ運漕  
長持四拾棹トゾ聞ヘリ也ニテ額色ノ執費ヲ知レヘキ事ナリ

俄羅斯亞雜誌拾遺附録

同九月十四日ヨロシヤ人ノ事ニテ表ハ御伺ノ趣附タリ大井  
大學頭殿御尋ノ事

一今度汲水仕ル候ヨロシヤ人共貢物ヲ捧ケテ参府拜礼ノ儀  
相頼ニ候トイヘニ御下知程伺ヒ難ク存奉リ候然レ上持  
汲ル候呈書狀上物等ハ御役所ヘ呼出シ請取置候様仕レハ

キヤ且呼出シ候節イウラニ加為丹同席ニ召置キヤ  
附タリ呼出シノ節道筋等御伺トシテ武器嚴重ニ備ルキ  
ヤノ事

一 預ヒノ通参府作付ニ候ノ阿蘭陀人同様ニ仕レベキヤ且  
通商ノ事も又イカノ御事ナリルキヤ表頼ヒノ精力逸ニ作付  
ラレ難キ節ニ御座候得イウロシヤ人共御役所ニ於テ申シ  
汲シ候上石一強ク押テ額等仕候我モ討リ難ク不利解ル聞  
候テモ其上ニ此系引レテ自然ニ州等延引ニ及ヒ候様ニ御  
座候ハ柄共互儀ヨリ相伺ヤトヘキ事  
一 ヲロシヤ人呼出ノ節西御奉許服裝表付上下着州仕レハキヤ



むすロシヤ人使節ヨリ以下人教王五人限り呼出シ候様下後  
スヘク候支

一 宗門ノ義相礼候旨拾別怪敷節と相見令申サス十二日申末  
松平ニ於テ作セ渡サルノ旨長幼ニカウ在候ニ付此節渡来ノ  
志考長決テ御制禁宗門ニモナキト使節ノ去ル由候共別  
ニ致ト礼もモモテ少方贈繪ニテモ仕ラセ候ヤノ事  
本條奉伺候以上

子午月十日

ヲロシヤ人阿蒙院カビクニト應封ノ様子并船中喰物等支  
且度長ノ此ヨリ異國船入候ノ義ニ付在古留等ノ記取調

子午上候様并大寺頭殿ヨリ作渡サレテ

在答書ノ支

ヲロシヤ人加那丹ト應封ノ様子松別見下ノ候様ニ相見  
弁ス加那丹亦別ニ尊敬ノ体御座ナリ同輩ノ様相見候  
以初登應封ノ節長生候檢使ノ去リヨ中ニ候且又船中  
喰物ノ義支并本國土物ノ如クニテ申分程ニ用名致シ  
積入候以候節ノ者之ヲ中候

一 寛保ニ交年ヨロシヤ國ヨリ書翰差込リ候支先ヨリ在書  
字ニ差込ラレ候又義界名之

梅崎ヘヨロシヤ人上陸ニ付御申上書ノ支

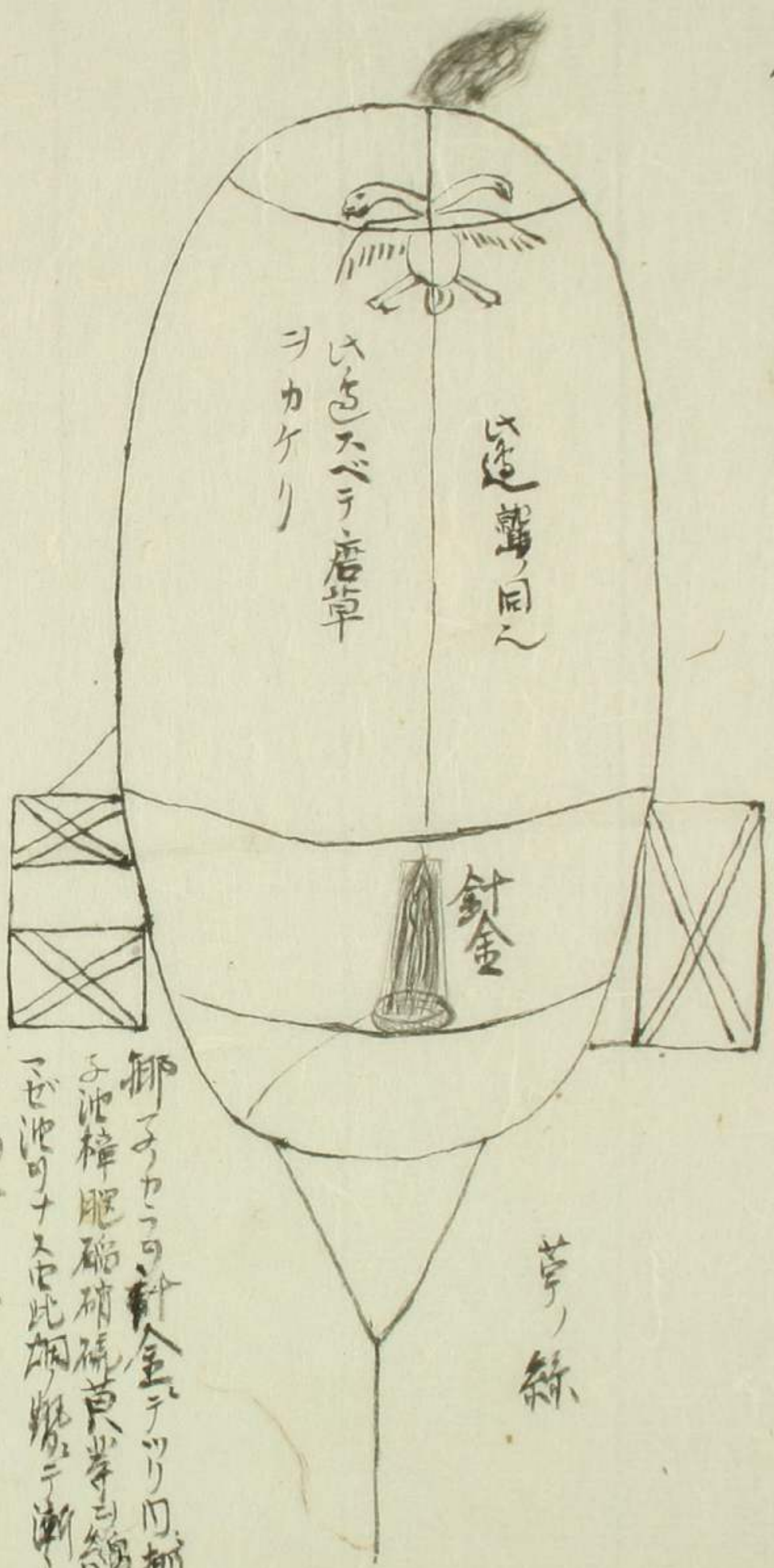


ヨロシヤ取成洋中ニ於テ群凡ニ途破損所物亦ニ付修復仕リ及陸  
ヨ出候ニ付先ヨ中付候處上廻リニ進ミ修復物亦候ニ若此候  
所モアリ余程旅底ニ付修復相ナリ難ク荷揚ケ仕リ陸仕  
ラ大候テハ行居キ難キ事先ヨ中ニ候間陸ノ文ハ御事コレナリ  
ニ相成歎キ候中聞候處在損所等修復致サス候テ時  
物モ相ナリ歎キ候類ニ相類ニ候モニ依テ詳談仕リ候處  
中享執余成ナリ相聞ヘ何レ修復中ニ陸仕ラス候テハ  
外ニ致方モ先ナリ候間相亂候ト亦相違モ先ナキニ於テ亦  
締合キ所ハ登陸固ヤ付事死リ致シ候仕レハ此取中候者

梅ヶ崎假館ニ異形ノ物ヲ空中ニ揚ル事其因

同丑年正月朔比上陸ヲヨシヤ人異形ノ物ヲ空中ニ揚ケ  
慰トス我國ノ風中ノ類ト云其形凡ノ如シ形凡クニテ龍卵ノ長  
キガ如シ竹ヲ以テ振ヘ然ク張リ繪ヲカケリ袋ノ中央ニ鷲  
ノ如キ大鳥アリ先ヨ上ヨリ女ノ武者鳥トミテ舞ヲ持下ケ雲  
ニ在リ鳥ヲ実体ヲ描ケルモ先列ヲヨシヤ國カタリイナ強  
勇ノ人物ニハ尊テ描クイヘリ





椰子カコウ針金テツリ同柳  
子池樟肥硝硝硝草等  
玉池可ナス此烟燻テ漸  
ト揚ルト云

右室中ニ揚ル初ニ葉ヲ燃シ烟ヲ十分袋中へ入烟満止時ホリ延

シ室中へ高く揚ル先椰子中へ池ヲ入火可付ヲキ如修中ノ烟ヲ緩  
クル中ナリ烟絶ル時漸トト下ニ極ニ極へタレモノナリ

一 二月晦日江ノ白リ御日附下着遠火舎江御延止日附塔田  
藤江村 白宮先御小人日附進藤江兵衛鈴木金右衛門末  
次吉兵衛猪野也御以ノヨトト人々此の時末末御延之へ着在  
西御奉以江同道ニヨ末末御延之へ御入江江御延之  
御同相濟御延之其後引續キ御日附兵衛延之  
日附御小人日附等立止御設所へ入末時後此ニ御封  
談也ア

御奉以所御延之因不飾ル月ノ不云



一 御衣園より湯池長柄流不飾白毛流一對程、緋紐飾  
馬二疋但之轡覆後三ハ黒羅紗凡二拵扱ノ金紋ナリ

一 御門表ニテ通具ナ本鏡用木栴

一 御衣園後者ノ向日リ真向ニスベテ同毎ニ金屏風五具ナリ

一 御衣園兼土間御設所ノ西組但ニ東長屋通行ノ所殘

ラ不衣不遣部屋不通り押マワレ惣ニ重幕打廻ニ也

一 御廣間奉行所給入御半附家御徒士等都々ナク列

座但ニ此次ノ同長柄ノ事寄致ラヌ列座

一 黒田鎧場大村ニ家ノ同役御廣間奉者ノ該所ナリ

一 御衣園方御普請役御半附御徒士日附御小付附

其外道徒ノ士吏ノ間毎土列座アリ

一 ヲロシヤ人御逢ノ間ハ御書院ナリ御日附西御奉行所

列座致ラヌ花毛襦ヲ敷ク

一 御門外右垣ノ下腰カケ張あり

一 普請方月原系ニテ大村家該切ハ表殿御リカビ張

堅ナナリ

ヲロシヤ人御設所ハ御衣園ノ節座死ナリ

一 同日午五ツ時西役所ヨリ半附在湯伴助上川傳瓦衛

門西人梅ケ崎ヲロシヤ館ハ檢役トシテマカク致メ日四ツ時

御設所へ方ナシ出全隊中後サレヲロシヤ人御請中ニ御役



所へまかり出れば者かアムルへ一に磁アニバサデユール後ニユラア  
レサノツト去外随従々共都合八人ナリ梅ノ端ヨリ大  
波戸マニノ取ニ采治心家ヨリ敬言國ナリハ此等場ヨリ上  
陸道中此比依レサノツト立山御門采ニテ采御廣回へ通  
レ阿常院通朝出向フコトシヤ八人ノ自儀持ト尚有云云  
采土回ニ在へ歿六人奥へ通レ銘々式書ニテ上書ヲ及帽  
子ヲ腕クモヨリ煩々ノ回リ通リ御書院御達ノ回ニ出  
レ御門内ニ座ニ裏付ト下ノ膝次ニ由奉行所麻下膝  
供御波サレノ執

云秋當所海采ニ月檢使差上ニ振子相存レトイハ此方リ

難ク先丁ニ故指此節呼出シ中聞へシ是年本衣不着岸ノ  
節以長崎表ニカク我候共書翰致し奉持參上レ  
回教方堅ク中波シモアハ所此又ハ一回も持參上段  
如何ノ我ニ候ヤノ云肥田墨後守殿ヨリト波サレヨリ人  
在ノ段通朝ヨリ通辨ス此回ニ茶葉菓子等出ルハ在答作セ  
波サレノ趣表知付リ候名年御當國へ方リ越候者帰國ノ  
上國王へ中道ニ候ヤ計リ難ク此段國王ヨリ沙汰ササナリ候付  
一向存シヤサス段相答へ席終テ退出ス  
在在作波サレノ度甚ト富ニ思ヒ此答程原入ル様相見え先  
ニ傳テ八ノ日中波シ先限リニ返教セリ聖七日又ハ御呼出シ



先アリ道中同朝ノ備

此ノ如ク七日御内附奉所共席昨日ノ如御内附御奉  
行衣服厨中目長袴上下此外厨中目長袴上下ニテ  
列座アリ

作波シノ事アリトシヤ人理ヲ以テ答ヘノ事

同日七月七日作波ノ文書下セ

右通り作波サレケルニ俄蘇斯西人共ヤケル通信通高寺  
ノ御初ナリ歎リ貢賦ノ品寺ニ御受納モナキ此モ  
キ亦ナキ是知致シ候係ナカウ御内附叶ハス使節ノ規模  
ツモ右國王ニ對シテ同ヘキ様ナリ割ヘ御引平并領致シ候託

決テモナシ候テ一ニ請ガタリ且又連波リ候漂流人等ナリ  
致シヤヘキヤ長リ及在奉ル趣通詞ヲ以答ヤケルモナキ  
後守御作シ聞ラレ候ニ漂流人ノ長連誠名在人数相波候  
ト請取ベシ且下サレ物ノ義ハ漂流人等數本投付ニ聞ル  
同報用名在ヘシ然レハ斟酌ニ及ブマシク又ト同レハ俄蘇斯  
亞答ニ左候ノ末益孝ハ代差立中請ハリ綿ハ決テ中請マシキ  
公且又乞マシテ承レ滞留中費用相應リ候義本第ニ用意  
仕リ本國出帆ノ節銀錢等相應ニ辨ヘカク在候同請入用勤  
定相立中ヘキ段ナリ此後守御知セシモ等々ノ義ハ御國用  
ヲ以御年當ナレ置レ候ヘキ其義ニ及ハス此外入用ノ事立候共



料物差立候杖ノ根ケハ敷義致シ候更名亦決テ相ナラ  
サ吉又ニ候名ノ聞ラレケルニハ、兼初仕リ候所中ノ本當ノ用  
モ漸ク相減レモ事、當地ニテ調達モ致スベクニカク在候  
處此儀之相叶ワサルノ秘藏ニ差<sup>取</sup>回<sup>取</sup>流存シモ、むカムシカワ  
ラズ来方リ候ク用辨致スベク候ハ、此海ノ一我計リ致シ保料物  
差出ニ費用相償じ且相物事致シ候更相ナラフニ候ハ、假令  
所中ニ於テ御死致シ候共、此取<sup>取</sup>下<sup>下</sup>ノ本當<sup>本當</sup>事<sup>事</sup>進モ價ナレニハ  
中<sup>中</sup>精<sup>精</sup>氣<sup>氣</sup>キ<sup>キ</sup>合<sup>合</sup>ニテ<sup>ニテ</sup>年<sup>年</sup>論<sup>論</sup>ハ<sup>ハ</sup>テ<sup>テ</sup>ス<sup>ス</sup>ル<sup>ル</sup>ヤ<sup>ヤ</sup>判<sup>判</sup>過<sup>過</sup>テ<sup>テ</sup>申<sup>申</sup>決<sup>決</sup>着<sup>着</sup>致<sup>致</sup>サ<sup>サ</sup>各  
御<sup>御</sup>困<sup>困</sup>リ<sup>リ</sup>ノ<sup>ノ</sup>様<sup>様</sup>子<sup>子</sup>ニ<sup>ニ</sup>相<sup>相</sup>聞<sup>聞</sup>ハ<sup>ハ</sup>候<sup>候</sup>然<sup>然</sup>ル<sup>ル</sup>ハ<sup>ハ</sup>最<sup>最</sup>早<sup>早</sup>時<sup>時</sup>刻<sup>刻</sup>後<sup>後</sup>ラ<sup>ラ</sup>レ<sup>レ</sup>故<sup>故</sup>リ  
口<sup>口</sup>レ<sup>レ</sup>ヤ<sup>ヤ</sup>人<sup>人</sup>出<sup>出</sup>ビ<sup>ビ</sup>ハ<sup>ハ</sup>必<sup>必</sup>作<sup>作</sup>セ<sup>セ</sup>後<sup>後</sup>サ<sup>サ</sup>ル<sup>ル</sup>花<sup>花</sup>ニ<sup>ニ</sup>依<sup>依</sup>テ<sup>テ</sup>セ<sup>セ</sup>ハ<sup>ハ</sup>過<sup>過</sup>比<sup>比</sup>進<sup>進</sup>出<sup>出</sup>ス<sup>ス</sup>物<sup>物</sup>通<sup>通</sup>詞<sup>詞</sup>共

ノ義<sup>義</sup>跡<sup>跡</sup>ニ<sup>ニ</sup>残<sup>残</sup>リ<sup>リ</sup>ト<sup>ト</sup>ヘ<sup>ヘ</sup>キ<sup>キ</sup>方<sup>方</sup>作<sup>作</sup>セ<sup>セ</sup>付<sup>付</sup>通<sup>通</sup>詞<sup>詞</sup>四<sup>四</sup>人<sup>人</sup>残<sup>残</sup>リ<sup>リ</sup>ニ<sup>ニ</sup>カ<sup>カ</sup>リ<sup>リ</sup>在<sup>在</sup>列<sup>列</sup>御<sup>御</sup>本<sup>本</sup>へ  
取<sup>取</sup>出<sup>出</sup>サ<sup>サ</sup>レ<sup>レ</sup>御<sup>御</sup>ノ<sup>ノ</sup>意<sup>意</sup>作<sup>作</sup>セ<sup>セ</sup>合<sup>合</sup>テ<sup>テ</sup>ラ<sup>ラ</sup>ル<sup>ル</sup>ノ<sup>ノ</sup>執<sup>執</sup>行<sup>行</sup>ハ<sup>ハ</sup>通<sup>通</sup>在<sup>在</sup>費用<sup>費用</sup>償<sup>償</sup>金<sup>金</sup>共<sup>共</sup>外  
品<sup>品</sup>ニ<sup>ニ</sup>立<sup>立</sup>候<sup>候</sup>義<sup>義</sup>之<sup>之</sup>尤<sup>尤</sup>ノ<sup>ノ</sup>執<sup>執</sup>行<sup>行</sup>ハ<sup>ハ</sup>相<sup>相</sup>聞<sup>聞</sup>ハ<sup>ハ</sup>候<sup>候</sup>ハ<sup>ハ</sup>此<sup>此</sup>節<sup>節</sup>差<sup>差</sup>遣<sup>遣</sup>候<sup>候</sup>品<sup>品</sup>ノ<sup>ノ</sup>送  
ル<sup>ル</sup>漂流<sup>漂流</sup>人<sup>人</sup>連<sup>連</sup>渡<sup>渡</sup>リ<sup>リ</sup>先<sup>先</sup>礼<sup>礼</sup>謝<sup>謝</sup>ス<sup>ス</sup>ル<sup>ル</sup>ハ<sup>ハ</sup>滞<sup>滞</sup>在<sup>在</sup>費用<sup>費用</sup>ノ<sup>ノ</sup>義<sup>義</sup>別<sup>別</sup>テ<sup>テ</sup>御  
回<sup>回</sup>法<sup>法</sup>ヲ<sup>ヲ</sup>以<sup>以</sup>御<sup>御</sup>本<sup>本</sup>へ<sup>へ</sup>先<sup>先</sup>ア<sup>ア</sup>ル<sup>ル</sup>候<sup>候</sup>ハ<sup>ハ</sup>強<sup>強</sup>ク<sup>ク</sup>立<sup>立</sup>候<sup>候</sup>ト<sup>ト</sup>モ<sup>モ</sup>立<sup>立</sup>候<sup>候</sup>ト<sup>ト</sup>モ<sup>モ</sup>又<sup>又</sup>江<sup>江</sup>ノ<sup>ノ</sup>表<sup>表</sup>御<sup>御</sup>本<sup>本</sup>  
ニ<sup>ニ</sup>モ<sup>モ</sup>相<sup>相</sup>取<sup>取</sup>御<sup>御</sup>下<sup>下</sup>知<sup>知</sup>モ<sup>モ</sup>ナ<sup>ナ</sup>ラ<sup>ラ</sup>ズ<sup>ズ</sup>テ<sup>テ</sup>ハ<sup>ハ</sup>相<sup>相</sup>濟<sup>濟</sup>流<sup>流</sup>レ<sup>レ</sup>タ<sup>タ</sup>候<sup>候</sup>テ<sup>テ</sup>ハ<sup>ハ</sup>此<sup>此</sup>上<sup>上</sup>日<sup>日</sup>敷<sup>敷</sup>ニ<sup>ニ</sup>懸<sup>懸</sup>リ  
旁<sup>旁</sup>以<sup>以</sup>テ<sup>テ</sup>巨<sup>巨</sup>カ<sup>カ</sup>ル<sup>ル</sup>間<sup>間</sup>敷<sup>敷</sup>此<sup>此</sup>段<sup>段</sup>程<sup>程</sup>能<sup>能</sup>理<sup>理</sup>解<sup>解</sup>中<sup>中</sup>聞<sup>聞</sup>ハ<sup>ハ</sup>キ<sup>キ</sup>様<sup>様</sup>委<sup>委</sup>細<sup>細</sup>ニ<sup>ニ</sup>御<sup>御</sup>本<sup>本</sup>ノ<sup>ノ</sup>處  
先<sup>先</sup>ア<sup>ア</sup>リ<sup>リ</sup>通<sup>通</sup>詞<sup>詞</sup>共<sup>共</sup>義<sup>義</sup>條<sup>條</sup>御<sup>御</sup>本<sup>本</sup>ノ<sup>ノ</sup>ハ<sup>ハ</sup>付<sup>付</sup>ク<sup>ク</sup>口<sup>口</sup>レ<sup>レ</sup>シ<sup>シ</sup>ヤ<sup>ヤ</sup>人<sup>人</sup>假<sup>假</sup>館<sup>館</sup>ニ<sup>ニ</sup>於<sup>於</sup>テ<sup>テ</sup>中<sup>中</sup>論<sup>論</sup>ス  
通<sup>通</sup>詞<sup>詞</sup>ヨ<sup>ヨ</sup>リ<sup>リ</sup>ヲ<sup>ヲ</sup>口<sup>口</sup>レ<sup>レ</sup>シ<sup>シ</sup>人<sup>人</sup>ハ<sup>ハ</sup>漸<sup>漸</sup>ク<sup>ク</sup>判<sup>判</sup>得<sup>得</sup>致<sup>致</sup>サ<sup>サ</sup>セ<sup>セ</sup>候<sup>候</sup>事<sup>事</sup>  
在<sup>在</sup>御<sup>御</sup>本<sup>本</sup>合<sup>合</sup>メ<sup>メ</sup>ノ<sup>ノ</sup>義<sup>義</sup>可<sup>可</sup>以<sup>以</sup>テ<sup>テ</sup>通<sup>通</sup>詞<sup>詞</sup>ヨ<sup>ヨ</sup>リ<sup>リ</sup>理<sup>理</sup>解<sup>解</sup>中<sup>中</sup>聞<sup>聞</sup>ハ<sup>ハ</sup>此<sup>此</sup>日<sup>日</sup>之<sup>之</sup>事<sup>事</sup>ヨ<sup>ヨ</sup>リ



近年輪相ノ大御答延引ニ及ヒテハ所漸クニ細得仕ラセ  
作セテ執事兼知任候所迄御事トシテモヨクモ旨直歎ク旨持呼  
リ候儀ト本名トキカテハ二月迄帯付ヨリ呈進仕ル儀御事トシテ  
サレヌモニ依テ通詞共此際サトヒ候所被相ノ事決テ受知  
相ナリ候儀ナカウ。且テ執事ニ付テモサテ又假テモ如何ニ付  
先達通詞共格別骨折候事故モ等々向々相對リ以テ差  
遣シテスヘシ然レハ返礼モナラテハ相ナラサレテハ二月事由國出  
産ノ道具類懸望ニ任セ差遣シテスヘキ名御内意ヨリ以テ波  
サレモニ依テ過分ノ旨ヲ差除キ通詞共受用ノ積リニテ決  
シ漸ク八日ノ夜初夜過御請古差出ス右明九日結了治定

御礼ニマカリ出ヘキ中同五日四ツ時ヨロシキ人御役所ヘマカリ出滞  
リナリ御請礼相スヘキ退出ス翌十日漂流人引渡シテヘキ事ニテ  
御事附衆西人檢役トシテ出渡モアリ候定ノ者請取引連シ  
本之御白洲ニ渡ラシ應御事同コレアリ候ノ如リ揚子官事ハ  
メシキ中ヘキ候作セ渡サレ

日本引渡不請取ノ書付

今度長崎ニ定ムル漂流人候事九平は又又太千四ノ者請  
取證如件

丑二月十日 長崎 御奉行所

本一條相スル十一日ヨリ十八日ニテ俄然別要本船へ荷積相スル



同日の由漆出帆下各入

ヲロシヤ人御役所へ出此節衣裳ノ事

一 便節ノ者、腰束ト着、煤竹色ノ天鷲紋ヲ着、世ノ様ニ立  
タレ、物ヲ着、大腰ヨリト、水色ノ絹ナリヤス、股引様ナル物ヲハ  
リ、筒長ノ皮、当ラハケリ、衣、將老ノ襟、黒天鷲紋ニテ、不、後、左、右  
ハ、襷ヲ取、小尻ノ涎、林ノ如ク、仕立、惣、金モツルノ様ナル物ニテ  
取、北ニモ、平、金ヨリ、以テ、模、様、ヲ、縫、上、ケ、タ、ル、物、ヲ、襟、飾、リ、ニ、又、別  
ニ、卷、タ、レ、モ、西、乳、ト、ニ、飾、リ、アリ、セ、宝、ヲ、以、極、大、廿、茶、碗、ノ、凡  
シ、ナリ、金、銀、ノ、ク、サ、リ、ヲ、以、テ、ト、ケ、タ、リ、的、ヨリ、腹、ニ、テ、堅、ニ、金、銀  
花ノ様ナル物ヲ板ハタル北丹カケナリ、咽ニ金銀ヲ以色飾

リ、鍍、大、石、帯、ヲ、レ、ノ、金、ノ、延、タ、レ、如、キ、織、物、ヲ、如、装、束、様、ナル、物  
ヲ、懸、ケ、幅、守、計、リ、也、金、銀、象、牙、等、ノ、飾、リ、タ、ル、帯、劍、惣、長  
廿二尺ニ寸計リ、物ヲ腰ニ花ケ此劍ヲトケタル所ハ、黒キ皮、帯  
ヲ、在、帯、ト、シ、シ、メ、先、ア、リ、被、リ、帽、子、ハ、長、ク、凡、メ、ニ、テ、黒、キ、毛、皮  
ナリ、兼、リ、方、ニ、蟬ノ様ナル羽ノ物ヲ、金ニテ、造、リ、タ、ル、物、アリ、後  
ロ、ニ、鳥、ノ、羽、ノ、如、キ、色、赤、キ、物、ヲ、拵、メ、ナ、リ、其、余、ハ、毛、ニ、雀、ニ、雛、又、ハ  
鳥、色、等、ノ、天、鷲、紋、ノ、腹、セ、都、テ、市、人、皆、装、束、ノ、如、キ、物、ヲ、懸、ク  
先、後、目、ノ、高、ト、下、ヨリ、衣、服、ノ、色、カ、ワ、ル、也、ニ、相、同、ハ、顔、色、阿、茶  
陀、人、ノ、様、子、ナ、リ、頭、髪、赤、氣、ノ、文、リ、色、ニ、テ、短、ク、結、キ、後、頭  
ニ、サ、モ、似、タ、リ、毛、ト、上、ニ、白、キ、粉、ノ、拵、ナル、物、ヲ、板、ヒ、カ、ケ、ル、体、ニ、相



凡此段阿蒙陀同標十

拾遺終

安昌氏德